



ASAHI University News Letter

vol.137

January 2022

発行日／隔月1日
編集・発行／朝日大学 総務部



朝日大学HP

「建学の精神」具現化に向けて

2022年を迎え、宮田淳理事長から新年の挨拶とともに、朝日大学の今年の基本方針が述べられました。

「建学の精神」の継承と具現化に全教職員一致して邁進しようというもので、地道にこれを進めていくことこそが「魅力ある大学、選ばれる大学」づくりの根幹であるとしています。また、大友克之学長、森下伊三男副学長、倉知正和副学長並びに田村康夫副学長からも、年頭所感がそれぞれ寄せられました。



「公認会計士試験(論文式試験)」合格を宮田淳理事長に報告

未来を担う人材育成

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本大学は、1971年に「岐阜歯科大学」として創立、その後、経営学部(1985年)の設置に伴う大学名の変更、法学部(1987年)及び保健医療学部(2014年)の設置を経て、昨年、創立50周年を迎えることができました。創立50周年を迎え、これまで支えてくださった皆さま、すべての卒業生、在学生、教職員、協力企業・団体、そして地域社会に感謝するとともに、次なる一歩を踏み出すべく教育、研究、そして医療に真摯に取り組んでまいります。

2021年は、COVID-19感染症拡大防止のため、2020年に引き続き、国民の社会生活・経済活動への大きな影響がありました。本大学においても、国際交流関係事業を始め各種事業や行事等の延期・開催規模の縮小やオンラインによる開催、一部遠隔授業の継続などの対応を行ってきました。また、学生の学修機会の確保を踏まえたワクチンの大学拠点接種の実施、地域貢献を踏まえ地元企業の職域接種への医師の派遣などの対応を行ってきました。

こうした状況下においても、フェンシング部の辻すみれさん(法学院4年)は、TOKYO 2020大会の代表として、女子フルーレ団体戦で6位入賞を果たし、2年後のパリ大会でのさらなる飛躍が期待されます。ラグビー部も、10年連続で全国大学選手権に出場し3回戦に進出するなど、本大学体育会は、徹底した感染対策の下での活動となりました。経営学部では3名の学生が公認会計士試験論文試験に合格し、合格者は累計50名となりました。また、法学部では卒業生が司法試験に合格したという朗報もありました。

18歳人口の減少が加速していく中で、2022年度もアドミッション・ポリシーに基づき優秀な学生を受け入れ、全学部全学科で入学定員の充足を目指すこととし、本大学の教育研究活動等の魅力・強みを効果的な広報活動等により積極的に情報発信しています。法学部及び経営学部においては、公務員試験合格や公認会計士・税理士などの資格取得を目指すなど、両学部の特

色・魅力をさらに伸ばしてまいります。保健医療学部看護学科は、卒業生全員の看護師国家試験合格を目指してまいります。保健医療学部健康スポーツ科学科は、保健体育教員やスポーツ指導者などを養成し、地域社会のニーズに応えるよう特色を伸ばしてまいります。歯学部は、歯科医師国家試験に合格する実力を身につけるとともに、優れた歯科医師になるための資質を磨くため、歯学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく教育の徹底及び歯学系共用試験の対策強化並びに附属医療機関と連携した高い臨床能力の養成に努めてまいります。また歯科医師国家試験に向けては、試験対策のさらなる充実を図り、全国トップクラスの合格率を目指してまいります。



理事長 宮田 淳

わが国は、教育の力で人材と知的な財産を生み出し、世界の中で活躍の機会を得てきました。特に高等教育は、わが国の社会や経済を支えることのみならず、世界が直面する課題の解決に貢献するという使命を持っています。2021年は、COVID-19感染症拡大によるパンデミックを乗り越え、学生の学びを止めないことを目標に掲げ、学修機会の確保といった大きな課題に挑んできました。そして、このような状況においても、教育の質の確保や研究の高度化等の諸課題に全力を挙げて取り組んでまいりました。私立大学は一段と進む少子化により厳しい経営を余儀なくされていますが、本大学は学長のリーダーシップの下、教職員が一致団結して「建学の精神」に基づく人材育成を行うことで、未来を担う人材育成という高等教育機関に課せられた使命を果たしていく所存です。

本年も皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

GREETING

51年目からの挑戦

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

1971年に岐阜歯科大学として創立した本大学は、学部増設に伴う大学名の変更などを経て、昨年、創立50周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を見極めながら、本年も引き続き記念事業等を展開して参ります。

50年を振り返り、あらためて本大学の立ち位置を点検いたしました。2020年度私立大学経常費補助金交付額は6億5166万7千円と、全国577大学中で96位、岐阜県内では1位に位置付けられました。本補助金は、①教育研究条件の維持向上、②学生の修学上の経済的負担の軽減、③経営の健全性向上に資するため、日本私立学校振興・共済事業団が国から補助金の交付を受けて各私立大学へ補助するものです。本学の高度な研究活動の他、特色ある教育の展開、地域社会への貢献やグローバル人材育成への取組み等が総合的に評価された結果です。

2021年5月に発刊された東洋経済の臨時増刊号「本当に強い大学2021」でも、全国576大学中で61位、岐阜県内大学としては1位を獲得しました。全国の国公私立大学を対象に①教育・研究力、②就職力、③財務力、④国際力の4つの指標で算出し、毎年、上位300校のランキングが掲載されます。本学における定員に対する適正な学生数、トップアスリートの育成、海外の大学との学生・教職員の継続的な相互交流が高く評価されました。

一方、地域に対する貢献活動につきましては、2021年10月発

刊の「日経グローカル」において、全国514大学中で76位、岐阜県内の私立大学として1位に輝きました。①大学の組織・制度、②学生・住民、③企業・行政、④働く場としての大学、⑤SDGs・コロナ対応の五分野においての活動が評価されております。



学長 大友 克之

新型コロナウイルスに対するワクチン接種につきましては、学内の体育館に接種会場を設置し、本学学生、教職員とその家族のみならず、広く地域社会の方々にも門戸を拡げて、2021年7月2日から3,995名に接種を行いました。これは、東海地方の大学としては国立大学法人三重大学と並び最速の対応となり、メディアからも高く評価されました。その後も県内の企業や団体の職域接種にも申請の段階から全面的に協力し、各接種会場へ本大学の医療職員を派遣いたしました。

これら外部評価の結果は、私どもが建学の精神に立脚し、まじめに歩みを続けてきたことが国や県、市、そして地域社会から信頼を得たものであることに他なりません。今後も4学部5学科、そして3医療機関を支える人財による「きちんとした教育」、そして「信頼される医療の提供」といった本学の強みをさらに伸ばしていく51年目の一步としたいと存じます。

今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

「魅力ある大学」を目指して

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の秋以降、コロナ感染者数が減り、一時の落ち着きを取り戻したかと思った矢先、今度はオミクロン株で再び外国人の入国が禁止となるなど、やはりコロナ禍にどっぷりとつかった一年でした。そんな中、対面と遠隔の混成授業が再開された後学期のキャンパスには学生が戻りつつあり、食堂やバス停など学内のあちこちで賑わいが見られるようになりました。しかし、コロナ禍以前のような賑わいのあるキャンパスに戻るには今しばらく時間がかかりそうです。

さて、本大学は1971年に創設され、2021年に満50歳を迎えました。これを節目として、本年から新たな歴史を積み重ねていく第一歩であるかのように、現在、1号館玄関アプローチ及び中庭の工事が着々と進んでおります。創立時の写真では低木が目立っていた中庭ですが、7階にある私のオフィスからは地面が見えな

いほどに今では枝が茂っております。コロナ禍で何となく気持ちが沈みがちになる中、リニューアルされた中庭で創立者宮田慶三郎先生の胸像と向き合い、新たな気持ちで新年を迎えることができたと思います。



副学長 森下 伊三男

本大学では、スポーツ界で活躍するアスリートや公認会計士試験に合格した高度な職業会計人の輩出など、建学の精神に謳われた社会性・創造性・人間的知性に富み、文武両道で学士力や高い規範意識を持った卒業生の育成に教育職員・事務職員が一丸となって取り組んでおります。皆様の御理解と御支援を賜り、「魅力ある大学」として更なる発展を目指してより一層の努力をしていく所存です。本年もどうぞ宜しくお願ひいたします。

さらなる発展と飛躍に向けた新たな年

新年あけましておめでとうございます。本年も皆様方によりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年、本大学は創立50周年を迎えました。各種の記念行事は、新型コロナ感染症拡大のため、今年に延期され開催されることとなりました。これから60周年、70周年…100周年…に向けて、さらなる発展と飛躍に向けた歩みは、すでに始まっていますが、振り返れば、創立時から建学の精神「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間的知性に富む人間を育成する」の基に行われてきた、多方面にわたる地道な取り組みによる成果が着実に具現化されてきています。その幾つかを挙げれば、本大学は、歯学部の単科大学から4学部5学科の総合大学に、体育会所属の運動部の全国的・世界的な活躍、特に2020東京オリンピック大会におけるフェンシング部の現役学生の入賞や、

公認会計士試験の多数の合格者の輩出、その他、高大連携や公開講座などの地域貢献活動が目に見えた形でより充実してきていること等です。一方、新型コロナ感染症はいまだに収束していませんが、感染拡大防止のためのハイブリッド型授業やワクチンの大学拠点接種のシステム構築・実践がいち早くおこなわれたことは、本大学の危機対応能力の高さを証したもので、これらは学長の強いリーダーシップの下、オール朝日による教職員の一致団結した取り組みの成果であると思っています。

今後とも教職員の皆様方のなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



副学長 倉知 正和

ソーシャルイベントの復活を

新年あけましておめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。

さて、学生生活は、この2年間の新型コロナ感染で大きい影響を受けています。教育に関しては、2020年度に比べ2021年度は大学の工夫や努力、また学生の協力により対面講義や実習を時間通りに実施することができ、平常時に戻りつつあります。それに対して学生生活は、ほとんどのイベントが自粛あるいは中止されたままで、社会生活面が大幅に停滞していると感じています。この影響により、最も多感な時期を朝日大学で過ごし、web中心の講義の結果、同級生のみならず先輩後輩など、大学でしか得られない「一生の友」と呼べるような人的財産を得る機会をも制限されたまま卒業していくのではないかと大変危惧しています。卒業生の大学満足度は友人数の多少からも得られること

が多いからです。また一方、先輩から後輩へ連綿と受け継がれてきたクラブ活動や学園祭など大学イベントのノウハウも途切れてしまう恐れもあります。ソーシャルイベントを復活させる際は、ノウハウを持っている教員が積極的に参加して、今一度学生組織を活性化させる場面もあるかもしれません。

2022年度、コロナの感染抑制状況にもよりますが、全面的な対面講義への復活と共に、クラブ活動・同好会活動など様々な大学イベントの活動再開を目指したいものです。

教職員の皆様の一層のご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



副学長 田村 康夫

謹賀新年

法学部長(兼)法学研究科長 杉島 正秋

経営学部長

小畠 信史

歯学部長(兼)歯学研究科長

田村 康夫

PDI岐阜歯科診療所長

堀田 正人

経営学研究科長

板谷 雄二

留学生別科長

虫賀 文人

事務局長

田中 聰

保健医療学部長

小島 孝雄

朝日大学病院長
医科歯科医療センター長

日下 義章

藤原 周

秋の叙勲 2名が受章

「瑞宝小授賞」

令和3年(2021年)秋の叙勲において、本大学の名誉教授である永野宏先生と兼松宣武先生が、共に「瑞宝小授賞」を受章されました。

永野先生は、歯学部基礎教育系物理学の教授として、兼松先生は歯学部口腔外科分野の教授として、教育・研究に多年にわたり寄与されたご功績が認められての受章となりました。



永野先生(名誉教授)



兼松先生(名誉教授)

睡眠医療センターが開設1周年を迎える大学病院

朝日大学病院(岐阜市橋本町)で、昨年9月30日に睡眠医療センター開設1周年を記念し、講演会が開催されました。

大阪大学大学院歯学研究科口腔生理学教室教授の加藤隆史先生の講演では、「Dental Sleep Medicineの光と影 口腔生理学の臨床的観点から」をテーマに、睡眠医学における歯科分野の大きな役割と重要性、さらには広がる睡眠歯科学についてお話しをいただきました。

また、スタンフォード大学医学部精神科教授で同大学睡眠生体リズム研究所所長の西野精治先生からは、同大学のある米国カルフォルニア州の魅力とともに、「睡眠医学とスタンフォード」と題して、睡眠における人々が感じる謎を現在までの研究成果をもとにわかりやすく解説いただき、さらには睡眠医学研究の最先端にまでおよぶ貴重なご講演をいただきました。

約80名の参加者は熱心に睡眠の科学について聴講しました。



スタンフォード大学の西野先生が睡眠医学の最先端を語る

歯科に対する国の政策の現状と今後

穂積キャンパス6号館大講義室において、「歯学部第1回FD研修会」が昨年10月28日に開催され、教職員175名が参加しました。

研修会では、歯学部客員教授で参議院議員の山田宏先生を講師にお迎えし、「歯科に対する国の政策の現状と今後」と題して、日本の歯科医療の将来の展望について、ご講演をいただきました。



山田先生が歯科医療の将来の展望を語る

歯科医療界の更なる進展を

研修会では、行政システムやエビデンスの重要性、議員による歯科に関する勉強会の取り組み等を詳細に解説いただくとともに、歯科医療界の更なる進展を目指される政治家としての信念が熱く語られ、歯科医療に携わる教職員にとって、大変貴重な学びのひとときとなりました。



メキシコ州立自治大学とのオンライン交流

1993年6月に姉妹校協定を締結しているメキシコ州立自治大学(UAEM)、明海大学と本大学歯学部学生が、14時間の時差の壁を越えて昨年10月27日オンライン交流を行いました。

今回の交流は、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)の「さくらサイエンスプログラム」の支援を受け、コロナ禍における“代替オンライン交流”という形で実現。本大学からは、永山元彦歯学部国際交流委員長はじめ、学生・教職員12名が参加しました。

「さくらサイエンスプログラム」で交流が実現

はじめに、新たにメキシコ州立自治大学歯学部長に就任されたDean Leticia Robles Bermeo先生から開催挨拶と本大学創立50周年記念への祝辞が述べされました。

オンライン交流で双方の学生らは、英語やスペイン語で元気に自己紹介や大学を紹介。特別講義では、本大学からは歯学部歯科保存学分野の二階堂徹教授による「直接コンポジットレジン修復における先端材料と技術」の講演(英語)が行われ、学生・教職員らは熱心に受講しました。

「世界的なコロナ・パンデミックが終息したら必ず再会しましょう」との固い約束を交わし、笑顔でオンライン交流の幕を閉じました。



オンラインで国際交流

結合組織移植をマスター

総合臨床歯科医師の育成

本大学と明海大学歯学部生涯研修部が主催する研修プログラムが、昨年9月5日に穂積キャンパス1号館臨床系実習室で開催され、15名の歯科医師らが熱心に研修に取り組みました。



クリニック・ステップアップ「結合組織移植(CTG)」をマスターする「根面被覆から歯槽堤増大術まで」をテーマとした今回のプログラムでは、4名の講師により「歯周外科総論、多種多様な移植テクニック、術式の選択基準、切開、縫合、外科器具の扱い方」の講義、「少歯・多歯における根面被覆術や歯肉増大術」などの実習が行われました。

受講者からは、「充実した内容で、とても有意義なセミナーであった」との声が聞かれました。

生涯研修部では、今後も高度な専門的知識と技術を持つ総合臨床歯科医師の育成のため、数多くのプログラムを提供していきます。

高大連携教育で 「公認会計士試験」3名合格

体育会会計研究部所属の学生3名が、昨年11月19日発表の「公認会計士試験(論文式試験)」にみごと合格しました。

公認会計士試験は「短答式試験」と「論文式試験」の2段階で行われ、学生たちは合格率9.6%(出願者14,192名で1,360名合格)の超難関試験である「論文式試験」に挑み、みごとに同試験突破を成し遂げました。

なお、昨年12月17日発表の「税理士試験科目試験(簿記論・財務諸表論)」でも多数の合格者を輩出しました。

高大連携による成果

本大学では、商業教育の推進をめざし岐阜県高等学校商業校長会との連携協定を締結し、高等学校と大学の7年間で公認会計士をはじめとする高度な会計資格に挑戦し合格できるよう、2012年度から充実した会計教育を行っております。

本大学では2014年度から2021年度までに、50名の公認会計士試験合格者を輩出しています。



合同の祝賀会を開催

「日本物流学会賞」を受賞!

経営学部土井義夫教授が、共著論文「企業間連携がトラック運送の生産性向上に与える影響に関する研究」(日本物流学会誌第29号掲載)で、第38回日本物流学会全国大会において、「日本物流学会賞(論文の部)」を受賞しました。同賞は物流に関する学問体系の確立に顕著な研究業績を挙げた会員に対して贈られるものです。



「歯科基礎医学会 学会奨励賞」を受賞!

歯学部歯科薬理学分野の大野雄太講師が「歯科基礎医学会 学会奨励賞」を受賞し、第63回歯科基礎医学会学術集会にて受賞講演を行いました。

歯科基礎医学会は全国の歯科基礎医学研究者で構成される学会であり、「学会奨励賞」は歯科基礎医学やこれに関連した領域において、国内で行われた研究に関する優秀な論文に贈られるものです。



土井・大野両先生の今後の研究の進展が期待されます。

ニセ電話詐欺などに注意を呼びかけ

法学部学生で組織する防犯ボランティア団体「めぐる」は、北方警察署や地域住民の方々と連携し防犯パトロール、危険箇所の確認、ゴミ拾いなどの幅広い活動を通じ地域社会に密着した活動を行っています。

犯罪防止の啓発チラシ

今回「めぐる」の学生は、昨年10月7日にニセ電話詐欺と還付金詐欺への注意を呼び掛けるチラシ、万引き防止のチラシ計3種類の作成発表会を開催しました。目を引く色遣いでイラストや注意書がデザインされたチラシ3,000部は、岐阜県内のスーパー・コンビニなどで配布され、詐欺の防止や万引き防止が呼びかけられました。

デザインなどを担当した白木友梨さん(法学部4年)は、「自分は詐欺には遭わないと考えていても詐欺に引っかかることがあるので、チラシが詐欺防止に役立てばうれしい」と語りました。



犯罪防止の啓発チラシを作成

「断髪式」元徳真鵬

穂積キャンパス6号館大講義室で昨年10月2日に、一昨年6月に角界を引退し、本大学事務職員（兼体育会相撲部コーチ）となった元十両・徳真鵬の白塚元久（三重県松阪市出身・本大学法学部卒）さんの「断髪式」が執り行われました。

力士は引退する際に、番付などに応じてちょんまげや大銀杏を切り落とす「断髪式」を執り行う習慣がありますが、徳真鵬は、新型コロナウイルス感染拡大の影響でこれまで「断髪式」ができませんでした。



宮田理事長が留めバサミを入れる

相撲道に精進、朝日大学の発展に寄与

引退から1年半を経て執り行われた「断髪式」には、宮田淳理事長をはじめとする本大学関係者、現役時代の恩師、元横綱稀勢の里の荒磯親方や阿武松親方（元幕内大道）と家族、支援者など約150名が出席。これまで相撲道に精進してきた徳真鵬からは、「皆様のおかげで相撲に取り組むことができ本当にありがとうございました。今後は、母校朝日大学の発展に寄与できるよう精いっぱい頑張ります」とのお礼の言葉が述べられ、会場から大きな拍手が沸き起きました。



「断髪式」での元十両・徳真鵬

ラグビー 大学選手権で勝利

「東海学生ラグビーリーグ戦」12覇を達成した体育会ラグビー部は、環太平洋大学（岡山県）との東海・北陸・中国・四国代表決定戦を制し、10年連続となる「第58回全国大学ラグビーフィニッシュ」への出場を決めました。

その後、八戸学院大学（北海道・東北代表）と福岡大学（九州代表）に勝利を収めたラグビー部は、花園ラグビー場（大阪）で強豪校の同志社大学（関西リーグ4位）と対戦、健闘するも、全国の壁は厚く3回戦での敗退となりました。

ラグビー部の来シーズンでの成長と活躍に期待すると共に、応援くださった皆様に感謝申し上げます。



「大学選手権連続出場」を決めたラグビー部員たち

人命救助で感謝状

本大学法学部3年生の坂本聖弥さんが、昨年10月27日に岐阜北警察署で、人命救助活動により同警察署の大久保成幸署長から感謝状をいただきました。

警察や消防と捜索活動

岐阜市長良吉津の百々ヶ峰で祖父と山登りに出かけた男児が行方不明になったことを坂本さんはニュースで知り、現場に駆け付けた登山仲間と合流。警察や消防の捜索が及ばない場所の捜索やボランティア活動に努めた結果、無事に男児を発見・保護することができました。

この功労により男児は、無事に家族の元へ帰ることができました。感謝状を受け取った坂本さんは「良い経験になりました。これからも人助けをしていきたい」と語りました。



感謝状を受ける坂本さん

フェンシング

関西学生と全日本選手権で活躍!

「第70回関西学生選手権（京都府大山崎町体育館）（2021年10月13日～17日）」において、体育会フェンシング部は2種目で優勝に輝く活躍をみせました。

また、「2021全日本フェンシング選手権（東京駒沢体育館 2021年9月17日）」では、佐野佑衣選手（法3年：鹿児島）が女子サーブルで3位入賞の好成績を収めました。



関西学生選手権で活躍のフェンサー

剣道 東海を5年ぶりに制覇

- ・「第44回東海女子学生剣道優勝大会」で5年ぶりに優勝（名古屋市枇杷島スポーツセンター 2021年9月25日）
- ・「第40回全日本女子学生剣道優勝大会」でベスト8（春日井市総合体育館 2021年11月14日）

NEWS

「思い」を英語で主張

「第37回高等学校英語弁論大会」(後援:岐阜県教育委員会、瑞穂市、岐阜市、中日新聞社、NHK岐阜放送局、沖縄県教育委員会、在名古屋米国領事館)が、昨年11月27日にオンライン形式で開催されました。

レベルアップするスピーチ能力

37回目を迎えた本大会へは、県内外47の高等学校から92名の応募があり、厳正なる一次書類審査を通過した東京都、愛知県、滋賀県、沖縄県ほか各都道府県から20名の生徒がスピーチを動画にして発表、ジェスチャーやユーモアを交えた英語スピーチを披露しました。

受賞名	題名	氏名
最優秀賞	It's all about how you think	新城 琳 (沖縄県立那覇国際高等学校3年)
優秀賞	Let's change the concept of beauty	バコウスキー イザベル キラ (私立光ヶ丘女子高等学校2年)
奨励賞	Two Percent	鶴 優稀 (私立尚絅高等学校2年)
岐阜県教育委員会賞	Life Saver	山村 涼真 (三重県立宇治山田商業高等学校3年)
瑞穂市長賞	The Pandemic and its Effects	シェルバン アレクサン德拉 ディアナ (東京都立国際高等学校1年)
岐阜市長賞	Seeing racism from two sides	清水 夏奈子 (静岡県立浜松北高等学校2年)
中日賞	The Future is in Our Hands	文字 愛紗実 (愛知県立旭丘高等学校1年)

6号館食堂リニューアル!!

穂積キャンパス6号館食堂が昨年9月にリニューアルされました。

より清潔感がアップした食堂では、各種定食はじめ、「丼」、「和麺・ラーメン」、「カレーライス」など低価格で豊富なメニューを取りそろえていますので、是非利用ください。



おしながき



清潔感あふれるカウンター

壁掛け時計の寄贈を受ける

朝日大学病院(岐阜市橋本町)で、第三代病院長(1998年4月～2004年3月)を務められた井田和徳先生のご遺族から寄贈を受けた壁掛け時計の除幕式が、昨年10月25日に行われました。

壁掛け時計は、井田先生の生前のご意志により、本館1階総合受付待合ホールの壁面に設置されました。

直径900mmのサイズは視認性も高く、患者さんをはじめ、教職員にとっても大変有益な壁掛け時計となっています。

この度のご寄贈に感謝し、引き続き、医療機関として地域社会に貢献できるよう努めてまいります。



壁掛け時計の除幕式にて

学修環境を充実

穂積キャンパス2号館2階では、歯学部の学修スペースを整備し、学修環境の充実がはかられました。

新たに整備されたのは、歯学部6学年における自学自修環境の整備及びカリキュラムと一体化した学修支援の提供を目的とした学修スペース「Asahi Academic Achievement Agora(162名収容)」、「グループ学習室(12名・26名収容)」の3室です。



グループ学習室



Asahi Academic Achievement Agora